

PICK UP!!

お 職員の推し本



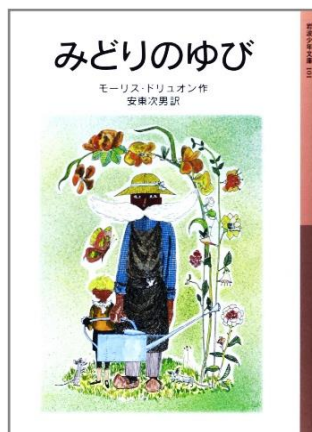
てらこや青義堂 師匠、走る 今村 翔吾 / 小学館

かつては凄腕の公儀隠密、今は寺子屋の師匠を生業にする十蔵と、その筆子（寺子屋に通う子供たち）とのお江戸冒険譚。『ザ・時代劇エンタメ』になっていて、時代物は苦手だなあという人にもおすすめです。中でも私の一番の推しポイントは、子どもたちのピュアさ。手習いが大嫌いだったりひどい浪費癖があったりとなかなかの曲者ぞろいなのですが、十蔵が忍耐強く寄り添うおかげもあって、みんな先生のことが大好き。先生の大ピンチには忍術書片手に駆けつけるんだから頼もしいですね。ほかの今村作品に登場するあの人がちょいちょい顔を出すのも、ファンにはたまらないポイントかもしれません。

みどりのゆび

モーリス・ドリュオン / 岩波書店

裕福な少年・チトは、種を芽吹かせ、花を咲かせることができる不思議な指を持っていました。彼はその力で町中に花を咲かせ、大人を驚かせます。けれど、チトのお父さんは、工場で鉄砲を作り、戦争をしている国に売る武器商人だったのです。チトは、大人たちに尋ねてまわります。どうして戦争が始まったのか、戦争をどう思うのか…。チトは、どうしたら戦争が終わるのか考え始めます。誰も戦争をのぞんでいないのに、なぜ戦争はなくならないのでしょうか。皆さんなら、なんと答えますか？大人たちが何と言ったのか、チトはそれを聞いて何をしたのか、ぜひ続きを読んでみてください。



ソフトボアのはぎれでつくる ふつうのぬいぐるみ

平栗 あずさ / グラフィック社



お気に入りのぬいぐるみを連れて旅行したり、写真を撮ったり…といった『ぬい活』が話題になっています。手芸店はもちろん、100円ショップでも手軽に材料を揃えられることから、自分でぬいぐるみを作るのも流行っているそう。

こちらの本は、縫い方の基本や作り方の工程が写真で載っていて、初心者の方でも分かりやすいものになっています。「いしころ」や「おくば」など、ふつうとは言い難いラインナップですが、どのぬいぐるみもシンプルなお顔で可愛らしいですよ♪

私は「おばけ」に挑戦してみました！

